

新 社 会 党

個人質問 松平 要

貧困死や孤独死を防ぐ施策を！所得格差を是正するため、公教育での情操教育の充実を！

―貧困・孤独死などの問題について―
問 豊かさの陰にまだまだに餓死や生活苦からの心中がある。直近では隣の八尾市で高齢の母と息子の二人暮らし世帯での貧困死が報道された。福祉行政の現場において、電気・ガスなどのライフラインの停止者の情報提供は受けられないのか。プライバシーの課題もあるが、暮らしと命の赤信号をいち早くキャッチする方策になると考えるがどうか。

また、独居老人の孤独死も社会問題となっている。本市では社会福祉協議会が主導し、事業所ふれあいネットが構築されつつあるが、こうしたネットから漏れている独居老人は何人いるか把握しているのか。また、対策はどうか考えているのか。

福祉部長 現在はライフライン等が停止された方の情報提供は受けていない。個人情報等の提供も含め様々な手法を検討し、各関係機関と連携に努める。また、現在ネットワークから漏れた一人暮らし高齢者の数は把握できていない。今後一人暮らし高齢者を支える制度の拡充等に取り組んでいく。

―学力格差の是正と情操教育について―
問 以前、教育専門家にお尋ねした際、就学前や低学年の子ども達にとって美術書に気軽に触れたり、クラシック音楽に親しむことが情操教育にとって大切であるという説されていた。人間形成や学力の基礎となるこれら家庭教育は親の所得格差が顕著に表れる分野である。こうした格差を是正し補完する意味で、学校図書室の充実や休み時間などのクラシック音楽とのふれあいは重要な教育課題と考えるが現状はどうか。

教育次長 情操教育は豊かな心を育成する上で大変重要なものと認識している。クラシック音楽とのふれあいについて、今後多くの学校で実施できるよう努める。また、学校図書室の充実については、美術書等に触れる機会が増えるよう、学校間、市立図書館と連携の在り方を検討していく。

照 隅 の 会

個人質問 中西 進泰

スポーツの良さを生かした多様なまちづくりを！

―3人制バスケケットボール「3×3」の普及―
問 3×3（スリーエックススリー）は、オリンピックの正式種目にも採用され、一チーム三人でコートも通常の約半分がよく、若者を中心に爆発的な人気を誇っている。リングさえ設置できれば空き地や公園、高架下など狭い空間を利用してできるので、市街地が多い東大阪市には向いているスポーツといえる。また本市はバスケットボールが盛んなまちであり、競技人口が多いが、体育館が2つしかなく体育施設が貧弱と言わなければならない。屋外の狭い空間を利用してできる3×3の場を市が積極的に設置する施策を実施するならば、市民のスポーツ実施率も高くなり、市民のスポーツへの関心が高まると考える。市の考えはどうか。

副市長 バスケットボールの盛んな本市の土壌を活かし、市民のスポーツ実施率向上を目的とした取り組みの一つとして、実施手法の検討を行っていく。

―一般介護予防事業の見直し―
問 昨年三月に厚生労働省は、都道府県や指定都市の介護・高齢福祉の担当者を集めた政策説明会で「これからの地域戦略」を発表し、その中で地域の「通いの場」を数多く設けていくことを政策の大きな柱にした。介護予防日常生活支援総合事業でも、要支援者等を対象とするサービスに限定することなく、ひろく六十五歳以上の高齢者を対象として通いの場を拡充する一般介護予防事業にもっと施策の重点を移すべきであると考え。市は一般介護予防事業として、従来から楽らくトライ体操推進員養成講座、口腔ケア教室、介護予防事業の委託事業等を実施しているが、もう一度見直す必要があるのではないかと考える。

福祉部長 一般介護予防事業をきっかけとした地域での拠点作りや担い手養成で自立した高齢者の活躍の場を増やし、それらが地域で継続的に拡充されていくよう努めていく。

NHKから国民を守る党

個人質問 嶋谷 昌美

スポーツを軸としたまちづくりを！

―スポーツのまちづくりについて―
問 令和元年第四回定例会の所信表明において、「中学校のクラブ活動に、本市を拠点として活躍するトップアスリートを指導者として招き、本市独自の教育の創造に努めてまいります」とや「花園中央公園を様々なスポーツの拠点として活用し、ラグビー・サッカー・野球等を『観る』楽しみ、ウィルチアーススポーツ等新たなスポーツを『する』楽しみ、本市を活動拠点とするスポーツチームを応援し『支える』楽しみ等、年齢や性別、障害の有無に関わらず、誰もが共に楽しめる新たな取り組みを進めてまいります」と申され、また、市政運営方針においても、「令和二年度はスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ、スポーツを軸とした多様なまちづくりに取り組んでまいります」と申していたが、私が提案させていただいた「スロースポーツ・スポーツコミュニティ」等はその中に含まれないのか見解を伺う。

市長 身体を動かすことによる効果のみならず、「コミュニティ」に属することによる社会参加が生きがいにつながるという効果も期待できるので、運営手法等について、今後、調査・研究を行ってまいります。

―ICTを活用した教育現場について―
問 ICT等の研修が教員の負担に繋がるのではないかとこの言う事も危惧しており、教員の働き方改革の一層の推進が必要だと考える。教育委員会では、定時退庁日やノークラブデーの実施、長期休業期間中の学校の一斉閉庁や留守番電話の設置、スクールサポータースタッフの配置等を実施しているところである中、教員への働き方改革への今後の意気込みも含め、見解を伺う。

学校教育部長 教員が児童・生徒の授業づくりや学習管理をより効率的にできる仕組みを構築するなど、働き方改革をより一層推進し、教員の負担を軽減できるように取り組んでまいります。